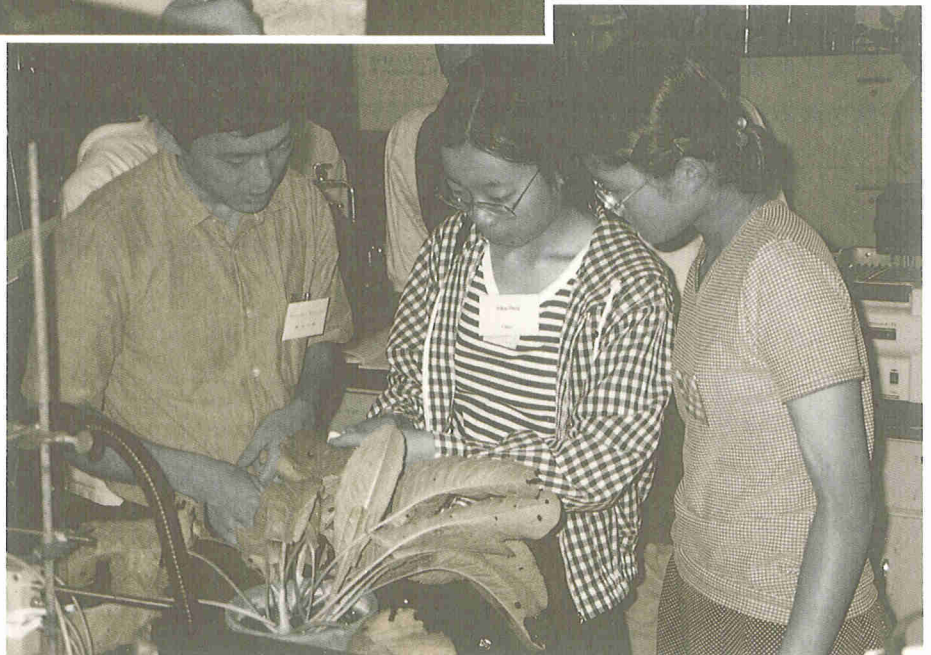
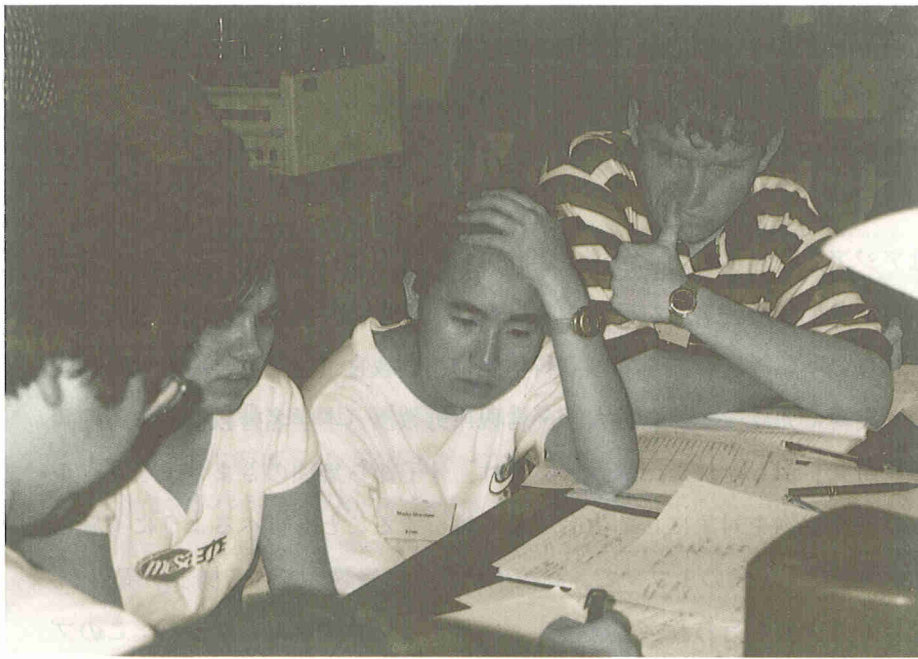


東京大学

大学院理学系研究科・理学部

廣報



表紙の説明

高校生インターナショナルサイエンススクール

このサイエンススクールは財団法人国際教育協会が毎年主催しているもので、アジア太平洋地域の高校生を日本の高校生とともに国内の主要な大学・研究所に招へいし、研究者による物理学および生物学等の分野に関する最新の講義および実習等を経験させる英語プログラムである。それによって、日本の最先端の研究の現状を理解させるとともに、各国高校生の交流を深め、日本とアジア太平洋地域諸国間の相互理解と友好親善の促進に寄与することを目的とするものである。平成6年度から始まり、8年度までは物理学については高エネルギー物理学研究所、生物学等については岡崎国立共同研究機構で実施された。9年度は、物理学は高エネルギー加速器研究機構（旧高エネルギー物理学研究所）が引き続き実施し、生物学については東京大学が担当することになった。実施したプログラムは「生物科学プログラム」である。

「生物科学プログラム」にはアジア太平洋地域から各国1名計11名、国内は11府県から11名、合計22名の高校生（2学年、3学年）が参加した。7月24日から7月31日まで生物科学専攻の他、臨海実験所・植物園で実施された。これらの所属教官に加えて国立科学博物館の教官（生物科学専攻流動講座併任教官）も担当した。講義・実習に先立って、立教大学・岩槻邦男教授（本学名誉教授）の特別講演「21世紀における生物多様性研究」がもたれた。講義・実習は、分子から集団のさまざまなレベルで、動植物からヒトまでいろいろな生物を対象にして生命現象を解析することを学べるように実施された。表紙の写真は「光合成」の授業・実験の1コマで、高校生が熱心に受講している様子が窺える。また、臨海実験所・植物園では野外実習も行われ、バラエティに富んだプログラムとなった。このプログラムを通じて、高校生が生物とその科学に一層興味を抱くだけでなく、お互いが仲良くなり、理解を深める一助になれば幸いである。

加藤 雅 啓 (生物科学専攻)
sorang@biol.s.u-tokyo.ac.jp